



後列左から
芝野銀神（仁井田小）、氏原海春（影野小）、窪田奈月（仁井田小）、井上海生（仁井田小）、森岡るか（高知小）、宮本健臣（高石小）、田井優風（窪川小）
前列左から
吉村至雲（仁井田小）、矢野日菜多（米奥小）、谷脇匠哉（窪川小）、吉村琥太郎（窪川小）、芝野紋仁朗（仁井田小）、石田彩翔（仁井田小）、吉村晶（窪川小）

高南・土佐 SBC 全国大会出場決定! 全日本県予選 春夏連覇!

第35回全日本小学生ソフトボール大会県予選の決勝が6月20日に津野町葉山運動公園で開催され、高南・土佐 SBC が見事優勝し、春季大会に続き春夏連覇を果たしました。仁井田小、影野小、窪川小、米奥小の児童と高知市、土佐市の児童らが所属する本チームは、8月7日から滋賀県守山市で開催される全国大会に出場します。夏の暑さにも負けない全力プレーを、全国大会でも見せてくれることでしょう。



スポレクしまんと2021 5月23日に緑林公園周辺で開催

5月23日、スポレクしまんと2021を、四万十緑林公園と四万十会館、高知県立窪川高等学校で開催しました。当日は天候が良く、多くの参加者にボルダリングやフレスコボールなどのスポーツ体験や、青空の下でのヨガ教室やバレエ、他にも、InBody測定や、ミニ手仕事市などもあり、参加者は梅雨の晴れ間に体を動かし楽しんでいました。



道の駅四万十大正のトイレ完成 老朽化のためリニューアル

1992年（平成4年）に建設されたミュージックトイレは、老朽化のため高知県が新たにトイレを整備しました。鉄筋コンクリート、延べ床面積85㎡の平屋で、木造部分は県産のスギやヒノキを多く使用し、広い窓で四万十川を眺めることができる構造となっています。中に入ると、旧大正町のイメージソング、さとう宗幸さんの「四万十の青き流れ」が流れる仕組みも引き継いでいます。ぜひ音楽を聴きながら四万十川を眺め、リフレッシュしてください。

▼しまんと健康パスポート

【お問い合わせ先】
健康福祉課 ☎22-3115
大正 町民生活課 ☎27-0112
十和 町民生活課 ☎28-5112

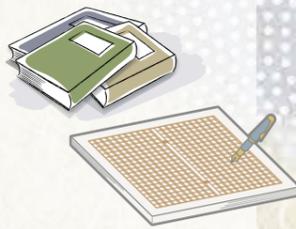
しまんと健康パスポートⅢ 4月・5月達成者のご紹介

四万十町では、高知家健康パスポートのマイスターランクまで修了された方を対象に町独自の「しまんと健康パスポート」を令和3年1月よりスタートしています。パスポートはI～Ⅲまであり、ランクアップ時にはちょっとしたプレゼントもあります。しまんと健康パスポートを活用した積極的な健康づくりに取り組まれ、パスポートI～Ⅲを達成された方々をご紹介します。

- 4月達成者 森本 社宗（もりもと むねたか）さん
5月達成者 森本 千枝（もりもと ちえ）さん

季節の風景 7月

芥川賞・直木賞



大正13年（1924年）に、菊池寛が文芸春秋を創刊して以来、芥川龍之介と直木三十五が文芸春秋の発展に大きく寄与したことから、昭和10年（1935年）に二人の作家の名前を冠した賞を創設したとされています。どちらの賞も上半期（7月）と下半期（1月）の年2回、選考会が行われます。芥川賞は「芥川龍之介賞」、直木賞は「直木三十五賞」が正式名称です。芥川龍之介は多くの作品が、娯楽性より芸術性が強い「純文学」と言われるもので、芥川賞では純文学作品が対象となっています。一方、直木三十五は芸術性より娯楽性に重きを置いている「大衆小説」と言われるもので、直木賞では大衆小説作品が選考対象となっています。また、どちらかの賞を受賞すると、それ以降、その作家はどちらの候補からも外されてしまうそうです。余談ですが、直木三十五のペンネームの由来がおもしろいのです。「直木」は、本名「植木」の「植」の字を分解したもので、「三十五」は年齢を元にしたものです。31歳のときに、直木三十一の筆名でデビューし、以降誕生日を迎えるごとに「三十二」、「三十三」、「三十四」と変名。ある時、菊池寛から「もういい加減に年齢とともにペンネームを変えるのはやめなさい」と忠告され、改名することをやめたエピソードがあるそうです。

今月の



すぐに結果が出ることよりも、 じっくり時間をかけて結果を待つ。

梅雨の季節、希ノ川の抜水橋から東の国道を走っていると、対岸の四万十川沿いに、300mはあろうかという色とりどりの紫陽花の「列」が見えます。近くに行ってみると、予土線に沿って続く農道の両側に、見事に咲き誇っていました。まさに、紫陽花の小径。この紫陽花の手入れをされているのが土居さん夫妻。国道を通りかかったという人が訪ねてくることもあるそうです。



▲可愛らしく美しい「紫陽花の小径」

最初に紫陽花を植えたのは「田んぼの畦や、農道の草刈りに手がかかるので」という動機から。「紫陽花を植えていると、下草がある程度抑えられるだけでなく花を楽しむこともできます。花が終われば刈れば済みましね」紫陽花の花を楽しむには、「開花時期が比較的長いということもメリット。それにしても、どうやって紫陽花をこれほど増やしていったのだろうか」と思い尋ねてみたところ、あっちこちに苗も植えたけれど、それを享子さんがかまめに挿し木で増やしていったということでした。

お二人とも「大の花好き」で、お花の話になると目が輝きます。里で育てるお花だけでなく、山に咲く花々にも驚くほど詳しく、二人合わせると、まるで歩く植物図鑑。



▲お孫さんが描かれたというお二人の似顔絵

どい あきら たかこ
土居 明・享子さん

明さんのお仕事は主に林業。ご自宅近くの山を少し案内してくださったのですが、視界に入っている植物のことで知らないことはないのではありませんかという詳しい。山で育てたい木を接ぎ木で増やす方法なども丁寧に教えてくださいました。

「すぐに結果が出ることよりも、じっくり時間をかけて結果を待つ方が性に合っている」という明さん。いろんなお花に興味があることのない享子さん。土居さんご夫婦の間に流れる穏やかな空気は、もしかしたら、お二人が大切にされている身の回りの植物たちの光合成による贈り物かもしれません。